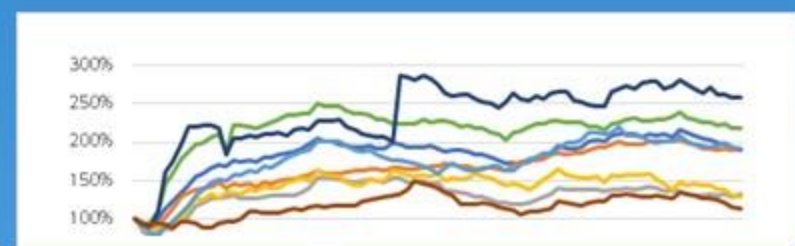




2021年最新版

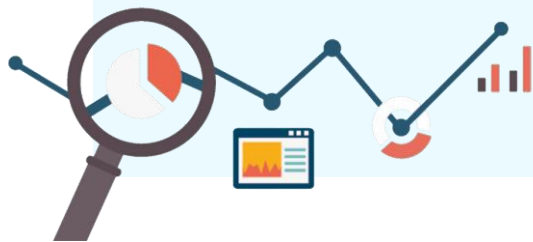
中途採用対策レポート



■変化の大きい市況の中で採用成功するために

2020年は変化の激しい年でした。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、新卒採用向けの合同企業説明会が次々と中止に。中途採用領域においても、採用計画の見直しを迫られた方も多いと思います。エン・ジャパンのもとにも「現在採用活動を行なって応募が集まるのか」「いつから採用再開すべきか」というご相談が多く寄せられました。

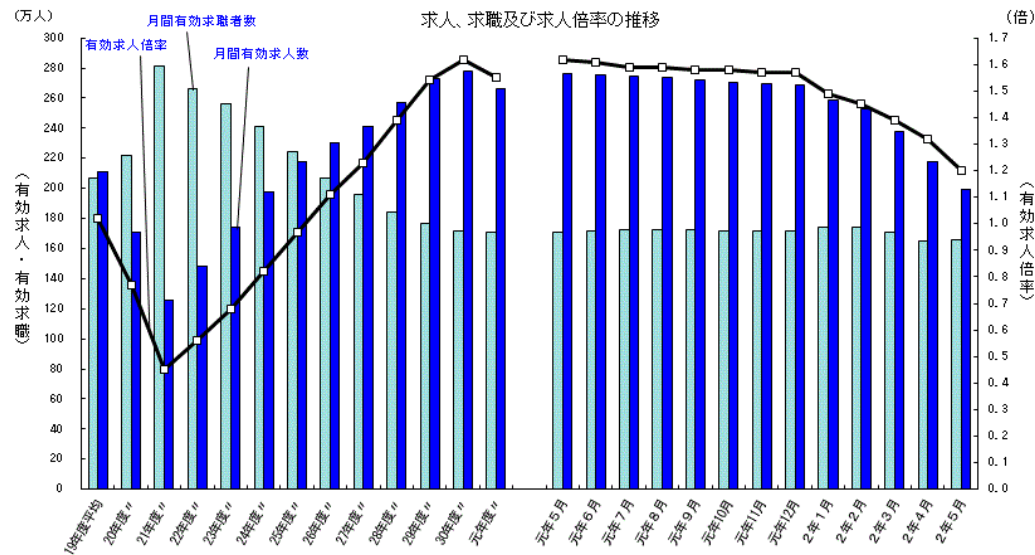
2021年も半分経過しましたが、新型コロナは未だ収束の兆しが見えず、採用にも大きな影響を与えています。そこで、コロナ禍の渦中で企業・求職者の動きや応募状況がどう変化したのかを振り返ることで、2021年の採用計画を立てる際の一助となるよう、本資料を作成しました。ぜひご参考いただけますと幸いです。



1. コロナ禍の採用難易度推移
2. コロナ禍の企業動向
3. コロナ禍の求職者動向
4. コロナ禍の応募状況
5. オンライン面接の導入状況
6. 2021年採用のポイント

コロナ禍の採用難易度推移

採用難易度は有効求人倍率で見る



※厚生労働省 一般職業紹介状況 (令和2年5月分より引用)

■有効求人倍率とは？

有効求人倍率とは、求職者1人あたり何件の求人があるのかを示すもので、毎月厚生労働省が発表しています。

企業が出している「求人の数（有効求人数）」を「求職者の数（ハローワークに登録している有効求職者数）」で割って算出します。

この有効求人倍率が高くなるほど、採用難易度も高くなります。

有効求人倍率が「1以上」なら**求職者有利**



例えば有効求人倍率が「4倍」の場合、1人の求職者を4社で取り合っている状態。1人の求職者が複数社から内定をもらいやすくなるため、有効求人倍率が1倍を超えると求職者に有利な採用市況と言えます。

企業側



ぜひA社に入社してください！



B社にはあなたが必要です！



C社が一番給与が高いです！



D社ならすぐ昇進できます！

求職者側



A・B・C・D社から内定をもらえた。よりどりみどりだ。

さて、どこに入社しようかな？

有効求人倍率が「1未満」なら**企業有利**



例えば事務職の有効求人倍率が「0.25倍」の場合。事務になりたい求職者4人に対して、事務募集をしている企業が1社しかない状態です。そのぶん、企業1社あたりの応募数が増えるため、有効求人倍率が1未満だと、採用成功しやすい企業に有利な採用市況と言えます。

企業側



A・B・C・Dさんから応募があった。
良い人ばかりだが、採用枠は1名。
さて、誰を採用しようかな？

求職者側



Aです！御社が
第一志望です！



Bです！理念に
ひかれました！

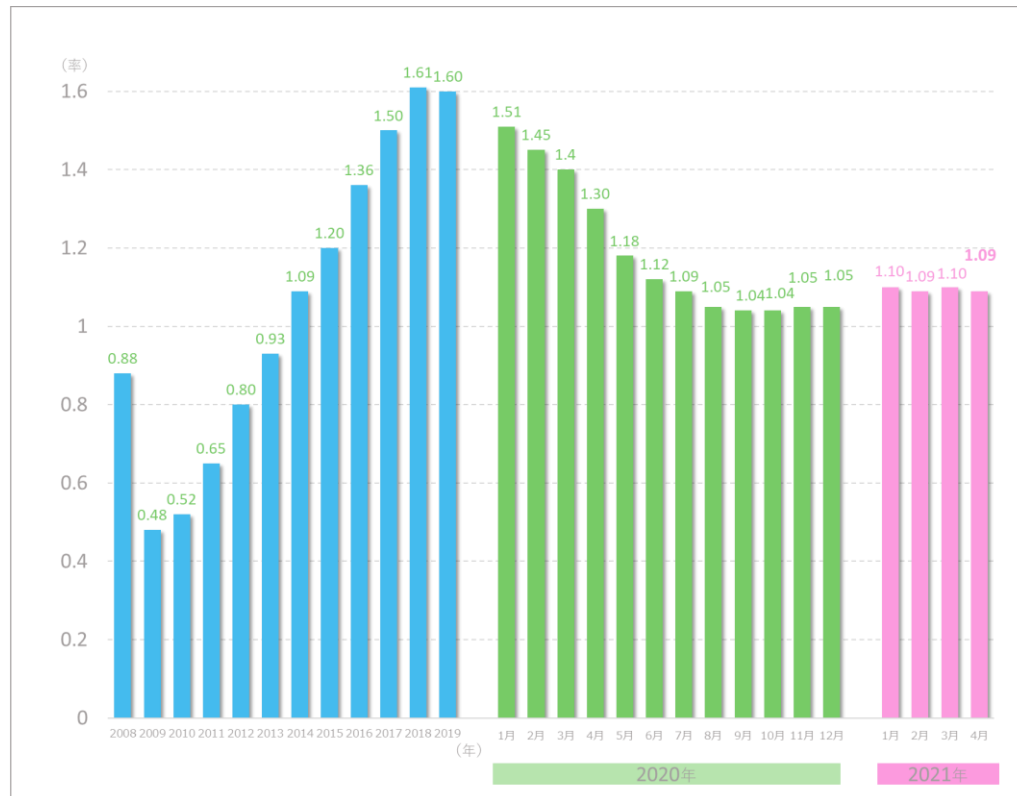


Cです！即戦力と
して活躍します！



Dです！業界経
験があります！

採用難易度が大幅低下 しかし、あくまで一時的なもの



2008年～2021年の有効求人倍率の推移を表したグラフ。少子高齢化が進み労働人口が減少する日本で、有効求人倍率が「1以下」になることは、まずありません。

実際、2018～2019年は「過去最高の採用難」と言われていました。しかし2020年に入り、新型コロナウイルス感染拡大により状況が一変。有効求人倍率は右肩下がり続け、「1」に限りなく近づきました。

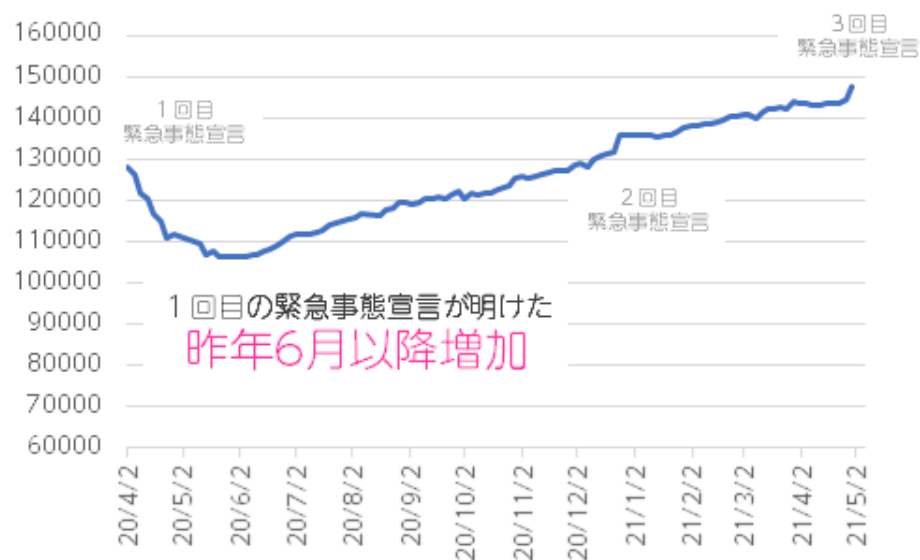


しかし、2020年8～9月を底に徐々に回復傾向にあります。2015年以降と比較すると、まだまだ採用しやすい市況であることには変わりありませんが、長く続かない可能性があるため、**早めの採用開始をオススメします。**

コロナ禍の企業動向

採用活動を行なう企業は右肩上がりで増加 緊急事態宣言も影響なし!?

大手求人メディア4媒体の掲載案件数の推移



※出典：エン転職調べ

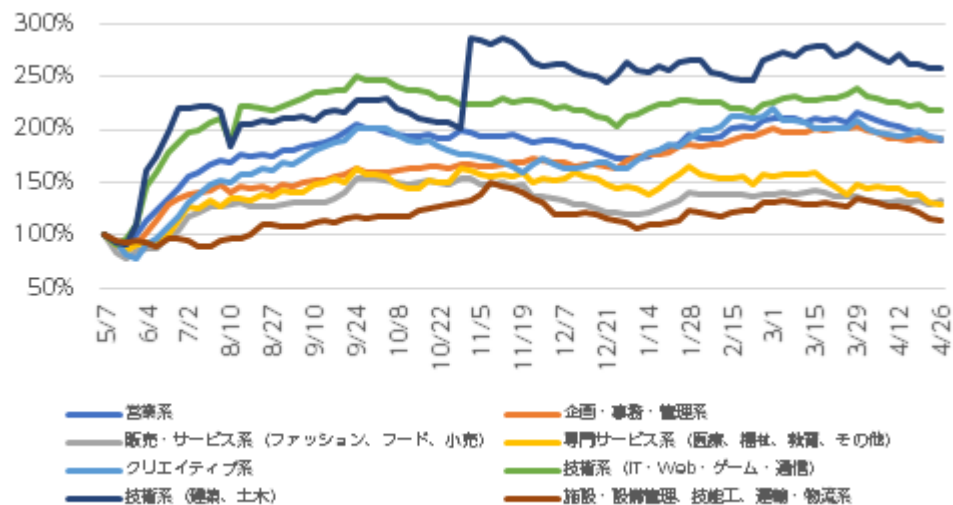
左図は、大手求人メディア4媒体の「求人掲載件数」の推移。

1回目の緊急事態宣言では、大幅に求人掲載件数が減少しましたが、2回目・3回目では特に影響が見られません。右肩上がりで求人掲載件数が増えています。

求人掲載件数が増えているということは、採用活動を再開する企業が増えているということです。採用市況はある程度回復したと言えるでしょう。

すべての職種で採用活動再開企業が増加

エン転職における掲載案件数の推移（職種別）



※2020年5月7日を100とした場合

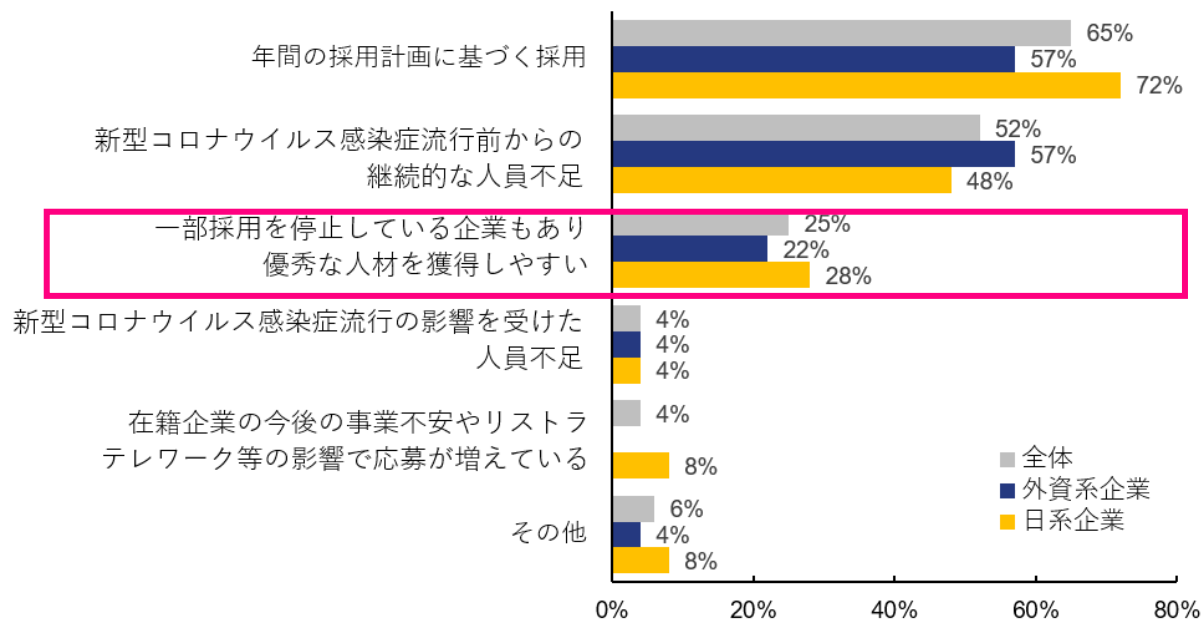
左図はエン転職に掲載された案件数の推移を職種別に比較したものです。

業界・職種問わず、採用活動を再開する企業が増えています。
2020年5月と比較してすべての職種で、募集案件数は110%を超えました。

特に「建築・土木」「技術系（IT・Web・ゲーム・通信）」に関する職種は、採用活動の再開が際立って早く、募集案件数は200%を超えています。

コロナ禍を**採用の好機**と捉える企業も

中途採用活動の状況が「非常に積極的」「やや積極的」と回答した企業に伺います。その理由を教えてください。（複数回答可）



左図はエンワールド・ジャパン株式会社が、2020年4月、企業224社に対して行なった採用活動に関するアンケート調査結果です。

着目したいのは、3つ目の回答。

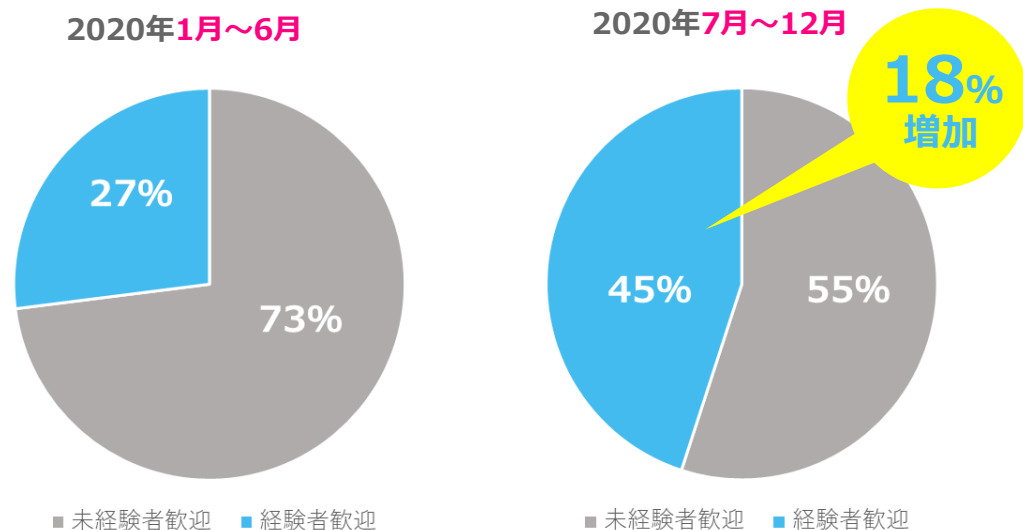
採用を継続する理由として、4社に1社が「コロナ禍を優秀人材を採用しやすい好機」と捉えていることがうかがえます。

実際に今を好機と捉え、経験者採用の需要が高まっています。

※エンワールド・ジャパン株式会社による新型コロナウイルス禍における中途採用の実態調査（有効回答数：224社）

経験者採用を行なう企業が急増

エン転職に掲載された「経験者歓迎求人」と「未経験者歓迎求人」の割合を2020年の上半期・下半期で比較



エン転職に掲載された「経験者歓迎」と「未経験者歓迎」の求人を、2020年の上半期・下半期で比較したグラフです。

- 1月～6月の経験者歓迎求人 : 27%
- 7月～12月の経験者歓迎求人 : 45%

2020年後半のほうが「経験者採用」を行なう企業が増えていることがわかります。



「新型コロナの影響で落ちた売上を再拡大するために即戦力となる経験者が欲しい」「リモートワーク導入でOJTが難しくなったので、教育の必用がない経験者が欲しい」などといった理由から、**経験者採用に採用方針を転換する企業が増えています。**

一方で、**未経験優秀層**の競争率は低下



「未経験優秀層」とはコミュニケーション能力が高い人や、主体的に学ぶ意志が強い人など、職種に関わらず活かせる能力が高い人材を指します。

採用難易度が低下傾向にあることで、普段採用するのが難しい「経験者採用」の競争率が高まっていますが、一方で「未経験優秀層」の競争率は低下傾向にあると言えます。



活躍するのが必ずしも「経験者」とは限りません。
例えば、接客業でコミュニケーション能力を鍛えられた人が、営業として活躍するケースは多いです。
経験者と未経験者、どちらを今採用するべきか、よく検討した上で採用活動を始めましょう。

新卒採用の代わる選択肢として、 注目が集まった**第二新卒採用**

コロナ禍が叫ばれ始めた当初、「新卒採用の合同説明会」の多くが中止となりました。計画通りに新卒を採用するのが難しくなる中で注目が集まったのが、「第二新卒採用」です。教育の費用負担・工数負担が少なく、社会人経験があるので早期活躍にも繋がりがやすい、第二新卒（社会人経験3年未満程度の人材）を若手人材として受け入れる企業が増えました。以下は、新卒採用の代わりに、第二新卒採用を行なう、メリット・デメリットです。

メリット

- 社会人経験があるので、社会人としてのマナーを教える必要がない。
- 経験者を採用すれば、早期に活躍できる。
- 自社にない知識・ノウハウ・人脈に期待できる。
- まだ若いので、企業の社風にも馴染みやすい。

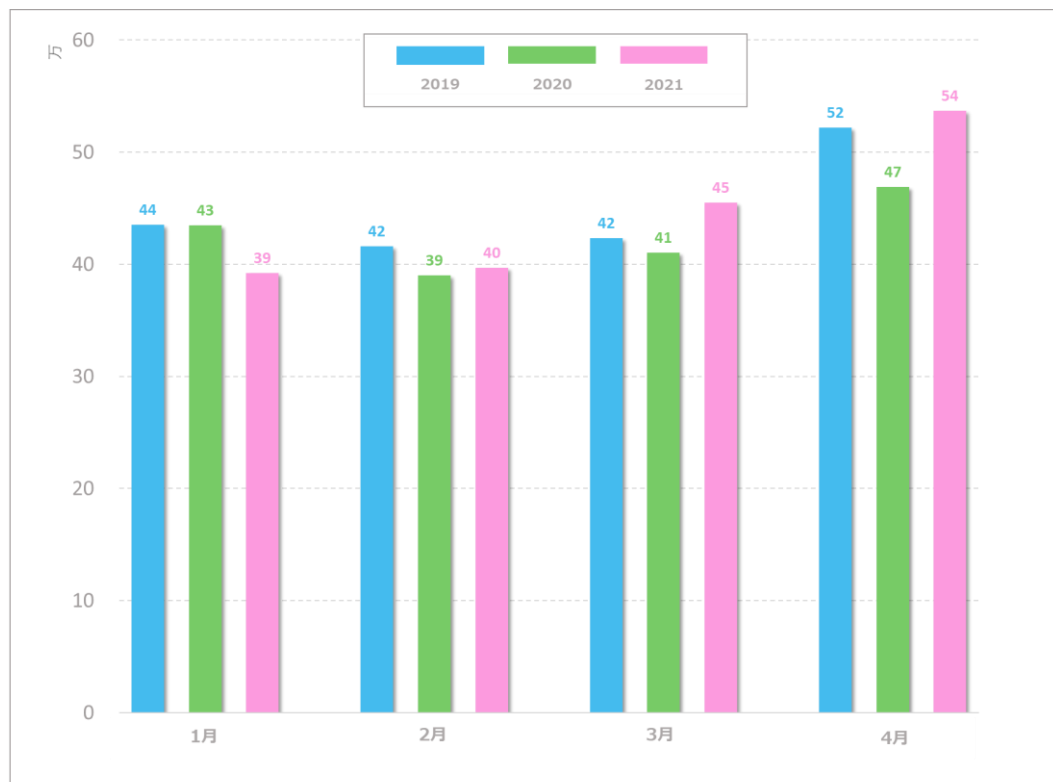
デメリット

- 新卒と比較すると、人件費が高い。
- 大量採用には向かない。

※第二新卒の離職率を心配する声もありますが、新卒採用と大きな差はありません。

コロナ禍の求職者動向

ハローワークの 新規求職者数はコロナ禍以前と同水準まで回復



※厚生労働省 ※令和3年（2021年）4月分（2021年5月28日公表）
新規求職申込件数（実数/パートタイムを含む）

左図は厚生労働省が公開している、新規求職申込件数（ハローワークに登録した求職者数）の推移です。

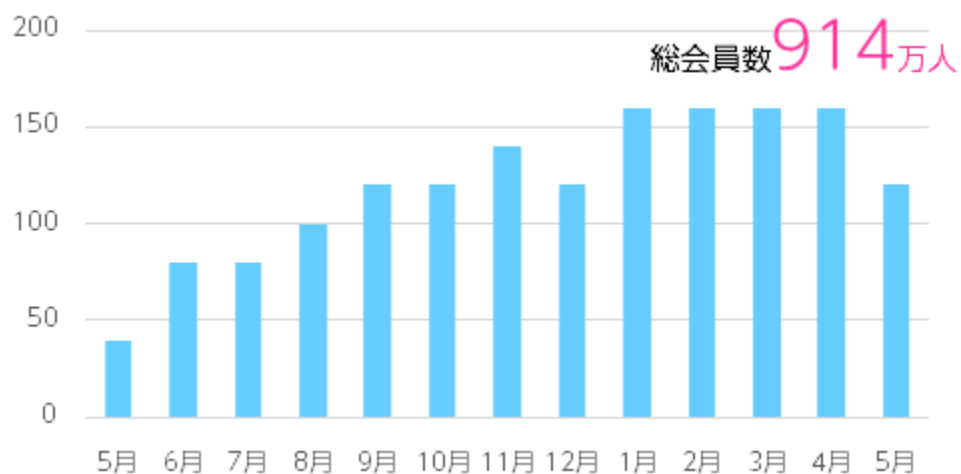
青が2019年。
緑が2020年。
ピンクが2021年。

図で分かる通り、コロナ禍以前である2019年と同水準まで回復。3月・4月に至っては、2019年よりも求職申込件数が増えています。

採用活動を一時停止している企業はありますが、求職者は以前より増えているため、採用競争率が低下。1求人あたりの応募数が増える傾向にあるようです。

エン転職の 新規求職者数は**昨対比200%以上**

エン転職における新規会員登録数の推移



※2020年4月を100とした場合

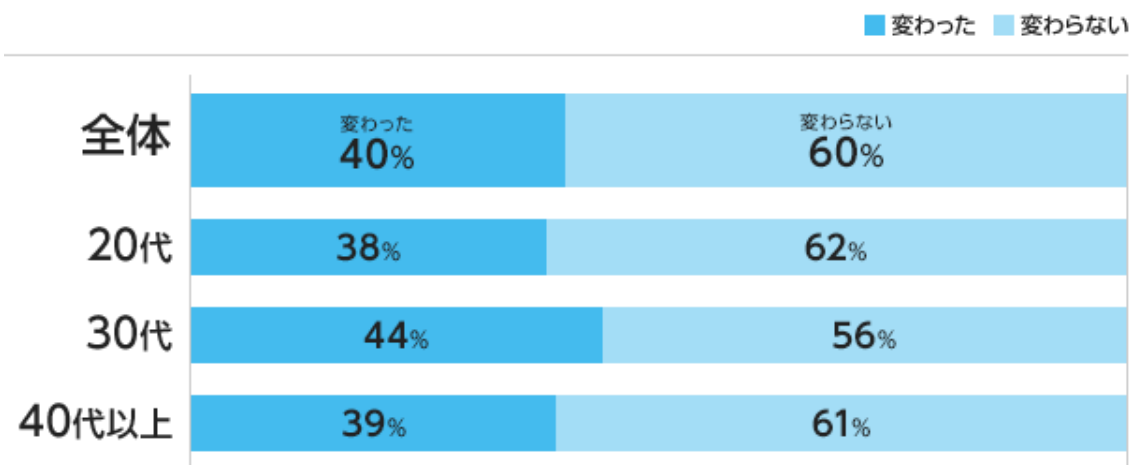
左図はエン転職の新規会員登録数（新たに登録した求職者数）の推移です。

2020年は不要不急の外出自粛が叫ばれる年でした。登録がすべてネットで完結する「エン転職」の新規求職者数は、5月以降上昇。2021年に入ってから4月まで150%を超えるペースで会員が増えています。

長引く新型コロナの影響で会社の将来に不安をいだいたり、収入が変化したり。転職活動の様子見をしていた求職者が、徐々に動き始めているのだと考えられます。

「今採用活動をして応募が集まるのか…」という不安の声を耳にすることがありますが、現在も求職者は活発に動いています。

約4割の求職者が、 「コロナ禍を経て転職軸が変わった」と回答



※アンケート手法：WEBアンケート アンケート期間：2020年11月26日～2021年1月26日
有効回答数：11,536名

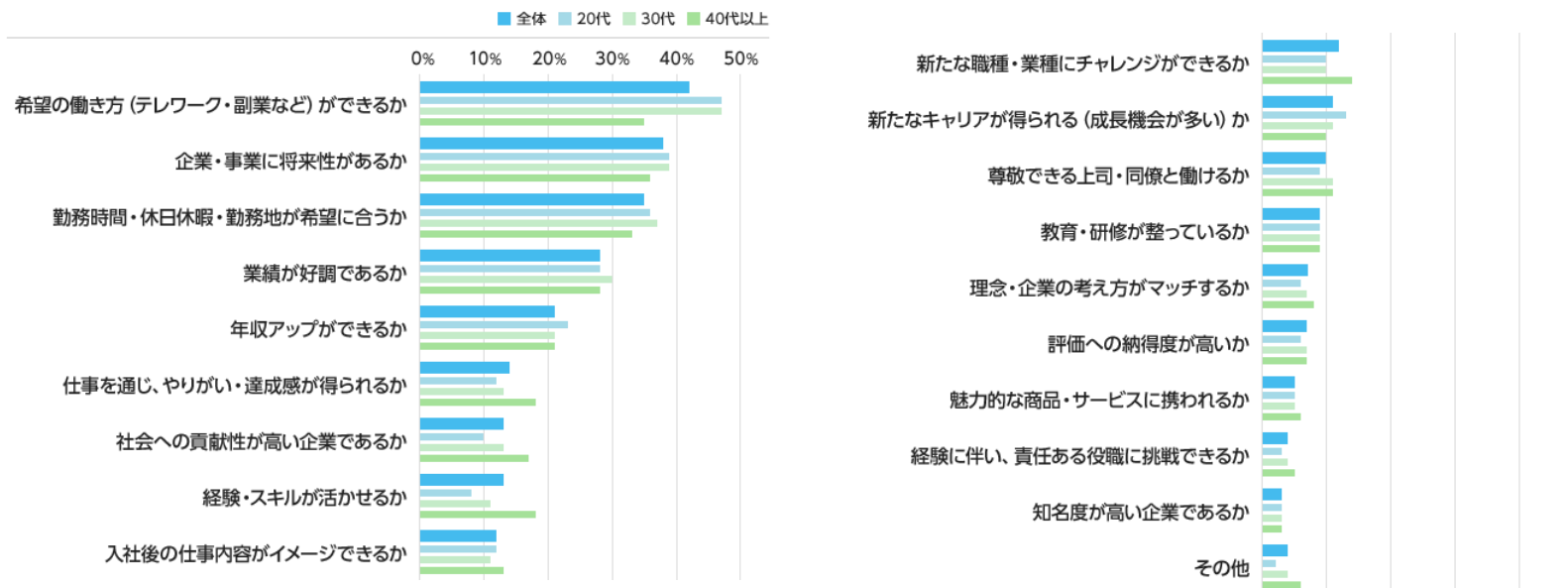
1万人を超えるエン転職会員（求職者）にアンケート調査。
「コロナ禍を経て転職軸が変わったか」を質問したところ、
約4割の方が「変化した」と回答しています。

具体的にどのように変化したのか？

より詳しく見ていきましょう。

新型コロナ後に重視するようになった転職軸 最も多かった回答は、**テレワーク・副業希望**

コロナ禍になってから重視するようになった転職軸で、もっとも多かった回答は、「希望の働き方（テレワーク・副業など）ができるか」でした。2位には「企業・事業に将来性があるか」が上がってきています。



※アンケート手法：WEBアンケート アンケート期間：2020年11月26日～2021年1月26日 有効回答数：11,536名

求職者の転職軸の変化 フルリモート希望の傾向が強まる

「エン転職のサイト内検索キーワードランキング」で
検索数が昨年比で急上昇したキーワード（2021年5月時点）

検索順位	キーワード	2020年の順位	2019年の順位
2位	在宅	2位	14位
3位	フルリモート	23位	圏外
7位	リモート	12位	圏外
11位	完全在宅	31位	圏外
12位	在宅勤務	8位	79位
15位	副業	20位	49位
18位	リモートワーク	14位	圏外
20位	テレワーク	19位	圏外

先程のアンケート結果が、実際の「仕事探し」でも顕著にあらわれていることを裏付けるデータがあります。

エン転職には「キーワード」で仕事を検索する機能があります。2019年と比較して検索数が急上昇したキーワードをまとめました。この表から、求職者が仕事を探す軸がこの2年で大きく変化したことがうかがえます。

特に多くランクインしたのが「在宅勤務」に関するキーワード。「2020年の順位」から分かる通り、2020年時点で在宅勤務を希望する人が急増しています。

2021年も引き続き在宅に関するキーワードが高い順位を占めていますが、その中でも順位を大きく伸ばしたのが「フルリモート」と「完全在宅」。一時的なリモート勤務・在宅勤務ではなく、永続的なフルリモート・完全在宅を希望する人が、昨年よりも増えていることが分かります。

求職者の転職軸の変化 副業を本気で考える人が増加

「エン転職のサイト内検索キーワードランキング」で
検索数が昨年比で急上昇したキーワード（2021年5月時点）

検索順位	キーワード	2020年の順位	2019年の順位
2位	在宅	2位	14位
3位	フルリモート	23位	圏外
7位	リモート	12位	圏外
11位	完全在宅	31位	圏外
12位	在宅勤務	8位	79位
15位	副業	20位	49位
18位	リモートワーク	14位	圏外
20位	テレワーク	19位	圏外

在宅勤務以外で順位を伸ばしたキーワードが、「副業」。

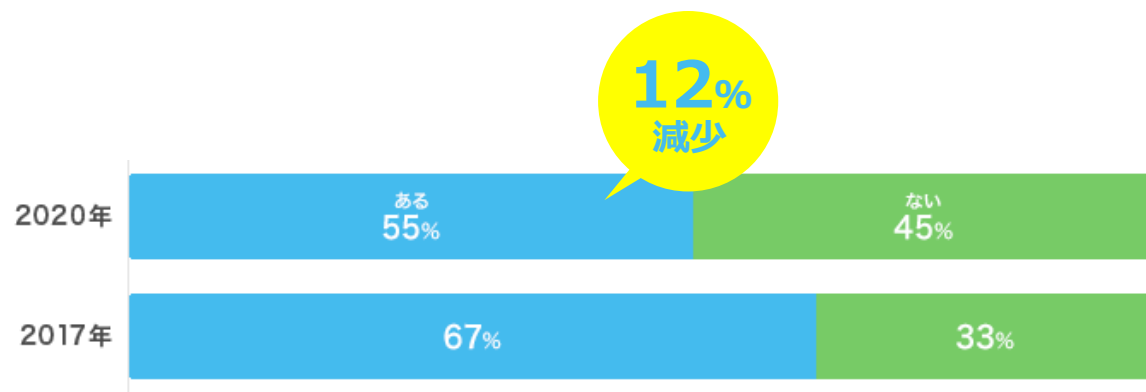
2019年は49位。
2020年は20位。
2021年は15位。

毎年順位を上げています。コロナ禍の影響を受け、
収入面に対する不安から「副業」を本気で考える
人が増えていることがうかがえます。

採用が難しい職種でも、副業という募集形態であれば、
希望する人が増えるかもしれません。

2020年は選考辞退数が減少

求職者2000人以上に聞いた選考辞退の経験 2020年・2017年比較



求職者に選考辞退をした経験の有無をヒアリングしたアンケート結果の2020年・2017年比較です。

2020年は選考辞退数が大きく減少していることがうかがえます。

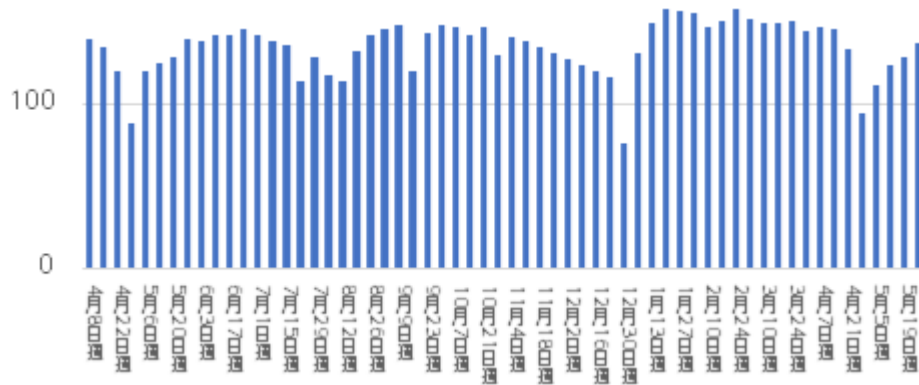
採用において企業に有利な市況に近づいたことで、多くの求職者が慎重になっているとも見て取れます。

コロナ禍の応募状況

エン転職の応募数は、 大型連休以降、徐々に増えて**高水準をキープ**

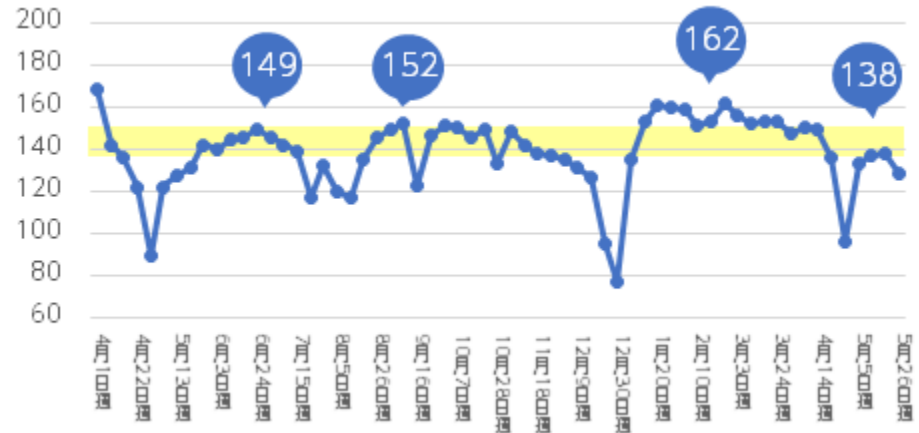
左図はエン転職の総応募数の推移。大型連休期間を除くと、その多くで100を超えています。
右図は、エン転職に掲載された1求人あたり1週間にどれくらい応募があったのかの推移です。
大型連休以降は、徐々に増え高水準をキープしています。

エン転職の総応募数



※2019年1月1日を100とした場合

エン転職の1件あたりの週別応募数

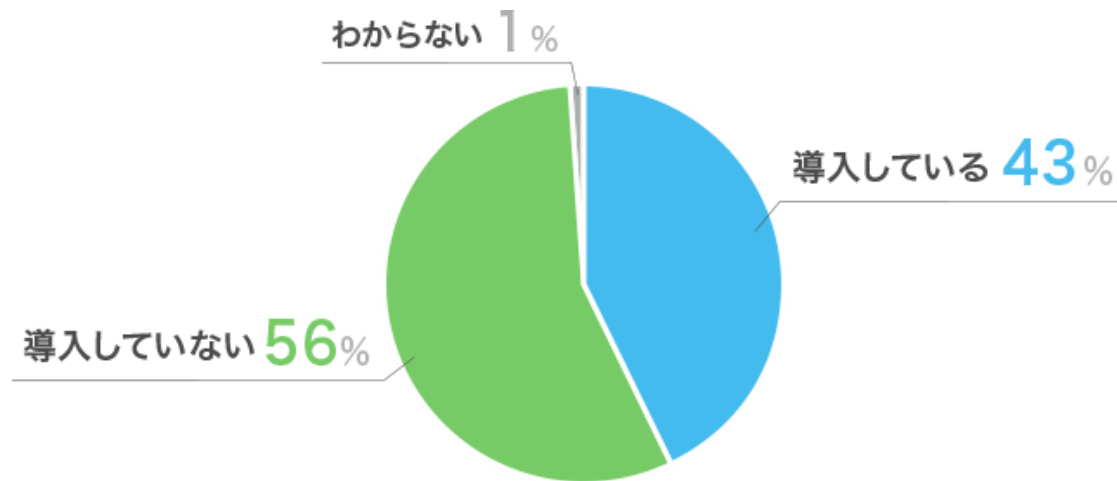


※2020年1月1日を100とした場合

オンライン面接の導入状況

43%の企業がオンライン面接を導入

貴社ではオンライン面接を導入していますか？



2019年までは「対面面接」が一般的でした。

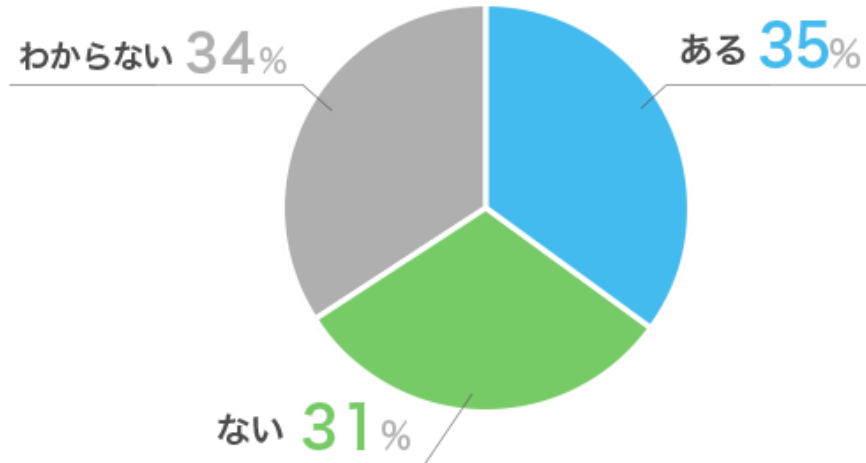
しかし、新型コロナウイルスの影響で状況が一変。感染拡大を防止するために「オンライン面接」を導入する企業が急増しました。

採用活動中の企業に行なったアンケートによると、「43%」の企業が「オンライン面接を導入している」と回答しました。

※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

導入していない企業の 35%もオンライン面接導入を検討

オンライン面接を「導入していない」と回答した方への質問です。今後、オンライン面接導入を検討するために現状の課題を改善するつもりはありますか？



※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

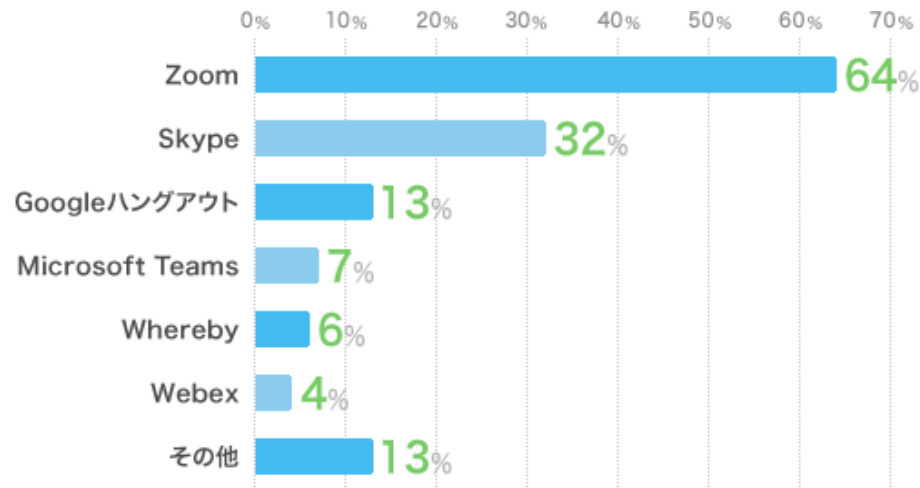
「オンライン面接を導入していない」という方のうち、「今後オンライン面接導入を検討する可能性がある」と回答した方が、「35%」もいました。

既にオンライン面接を導入している企業も含めると、近い将来「60%以上」の企業がオンライン面接を導入する可能性があります。

面接のオンライン化の傾向は、今後も続く見込みです。

オンライン面接ツールとして、 2位に倍の差をつけて人気だったのはZoom

オンライン面接で使用しているツールを教えてください。



※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

「オンライン面接ツール」として最も人気だったのは、「Zoom」でした。

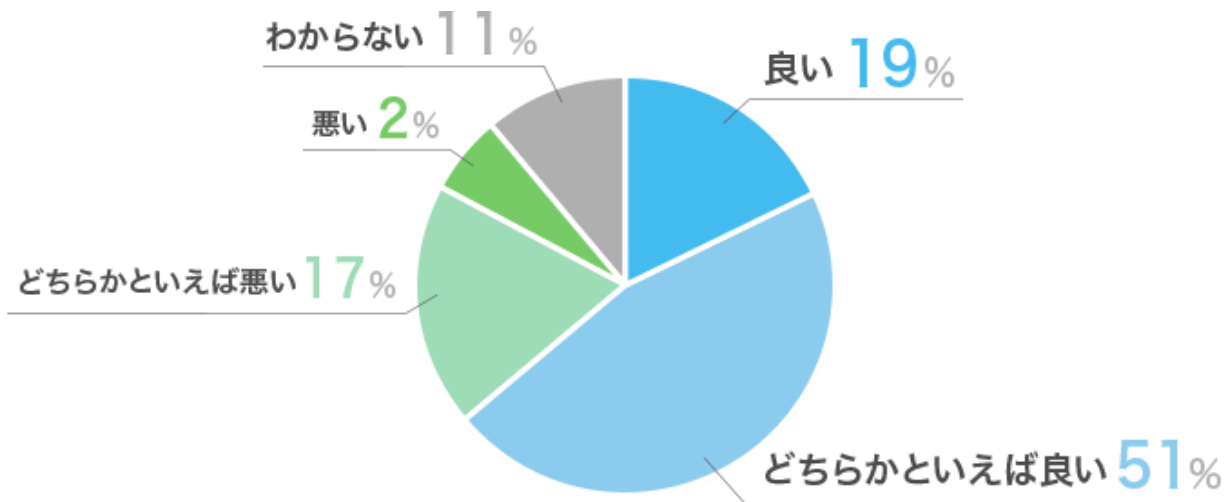
Zoomとは、ビジネスシーンに特化したWeb会議ツール。無料で使える他、背景画像の変更、資料の共有などの機能もあり、面接に使いやすいのが特徴です。

エン・ジャパンでは、オンライン面接だけでなく、オンライン商談・オンライン会議・オンラインセミナーでもZoomを活用しています。

オンライン面接の導入される際は、活用方法のアドバイスもできますのでお気軽にご相談ください。

オンライン面接を 導入した企業の**70%**が好感触

オンライン面接を実施した感想を教えてください。



※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

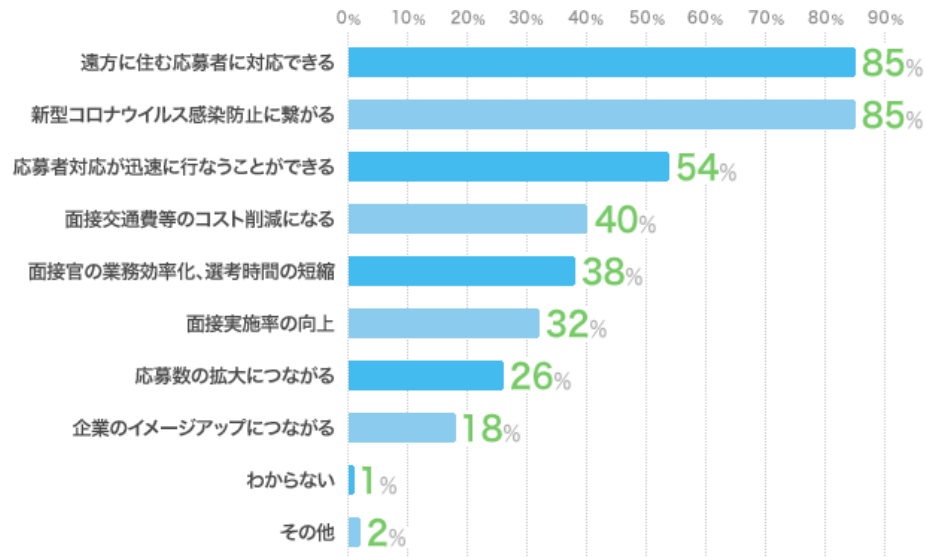
オンライン面接を実際に導入してみた企業に感想をうかがったところ、

19%が「良い」
51%が「どちらかといえば良い」

…と回答しました。合計すると、オンライン面接導入に好感触な企業は「70%」もいるようです。

オンライン面接を導入して「良かった理由」 第1位は遠方に住む応募者に対応できる

オンライン面接を導入して「良かった」と感じる理由を教えてください。



※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

オンライン面接を実際に導入して良かった理由の第1位は「遠方に住む応募者に対応できる」でした。

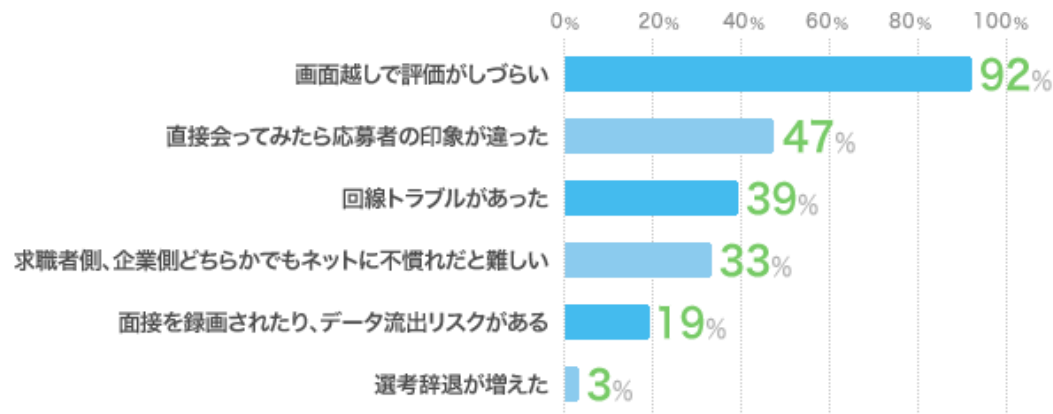
遠方からの応募にありがちな、「人事・採用担当者が面接に行けない」「交通費がネックとなって応募者に選考を辞退されてしまった」という問題が減少したそうです。

同率2位は「新型コロナウイルス感染防止に繋がる」でした。オンラインであれば対面面接のように、感染する・感染させてしまうといった心配がありません。

またその他にも、人事・採用担当者の面接交通費・宿泊費の削減に繋がる、移動がなくなりスケジュール調整がしやすくなったことで、結果的に選考時間が短縮されるといった声もありました。

オンライン面接を導入して「良くなかった理由」 第1位は画面越しで評価がしづらい

オンライン面接を導入して「良くなかった」と感じる理由を教えてください。



※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

オンライン面接を実際に導入して良くなかった理由の第1位は「画面越しで評価がしづらい」で92%と圧倒的でした。

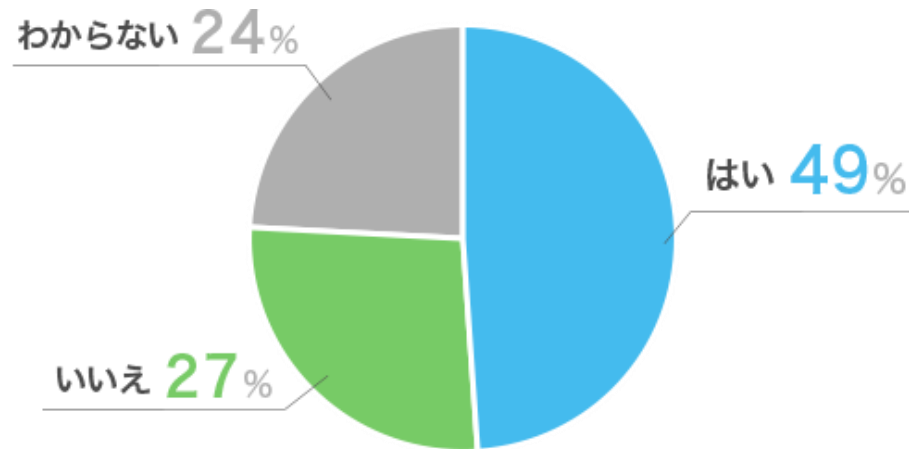
対面面接では相手のしぐさやちょっとした表情の変化が、人柄を知るキッカケになります。しかし、オンライン面接ではこうした変化が分かりづらくなることで、苦戦する方も多いようです。また、画面越しで必要以上に応募者が緊張してしまい、面接官も緊張を解すことができず、「本来のポテンシャルが把握できなかった」という声もありました。

オンライン面接を導入する上で気をつけたいポイントは、人事・採用担当者向け総合情報サイト「人事のミカタ」でもご紹介しているため、ぜひご参考ください。

[▶こちらをクリック：人事のミカタ「オンライン面接入門」](#)

オンライン面接を導入していないことで、 約半数の企業が「採用が不利になる」と感じている

コロナ時代の採用において、オンライン面接を実施しない企業は採用が不利になると思いますか？



今回のアンケートで「49%」の企業が、「オンライン面接を導入していない企業は採用が不利になる」と考えていることが判明しました。

オンライン面接の導入が、今後も採用のスタンダードになるかもしれません。

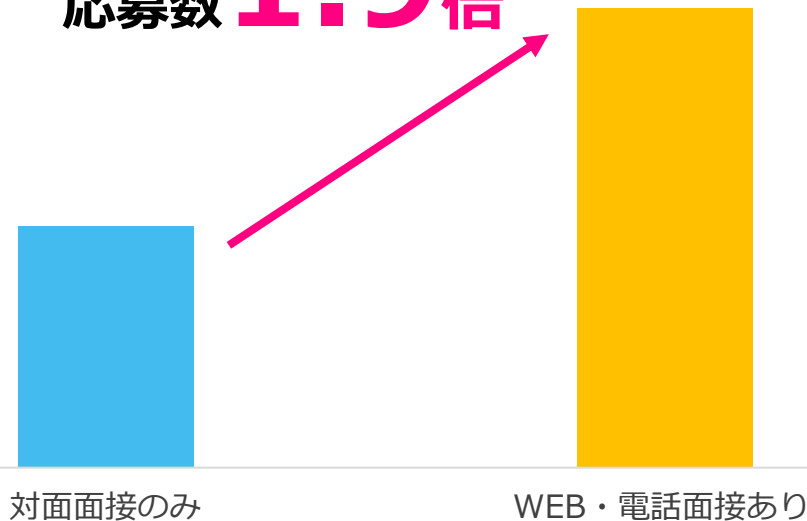
オンライン面接を導入していないのであれば、「一次面接のみオンライン化してみる」など、一度試してみることをオススメします。

※オンライン面接に関するアンケート調査
(有効回答数：454名 実施機関：2020年7月8日～2020年8月4日)

通常求人と比べて Web面接OK求人は応募数1.9倍

Web・電話面接実施有無の応募数比較

応募数 **1.9倍**



約半数の企業が「オンライン面接を導入していないことで採用が不利になる」と回答していましたが、その考えが正しいことを裏付けるデータがあります。

2020年9月～2020年12月のエン転職掲載求人のうち、Web面接OK求人は通常求人と比べて「1.9倍」応募数が多い結果となりました。

コロナ禍での転職活動では、オンライン面接の実施有無も、求職者の応募の条件になってきています。

2021年採用のポイント

2020年の振り返りから、 2021年に活かせるポイント①

- 採用難易度は低下傾向。しかし長くは続かない可能性があるため、検討している職種があれば早めの採用開始が吉。
- 全職種で採用活動が再開されているが、コロナ禍以前までは回復していない（競合が少ない）。
- 人材獲得競争率が低下している現状を、優秀人材採用のチャンスと捉える企業もいる。
- 未経験優秀層の競争率も低下。あえて未経験者を狙うことで活躍人材を採用するのも有効。
- 新卒合同説明会が中止となったことで、第二新卒の採用に注目が集まる。

2020年の振り返りから、 2021年に活かせるポイント②

- 求職者数はコロナ禍以前と同水準まで回復。
- 求職者数はコロナ禍以前より増えている月もある。
- 完全在宅・フルリモートでの勤務を希望する求職者が増加。ただ、「一部在宅」というだけでも求職者にとっては大きな魅力。求人でアピールするのが吉。
- 副業も本格的に視野に入れている人が増加。採用が難しい職種は副業勤務も可能にすると、母集団を増やせる可能性あり。
- 採用において企業に有利な市況に近づいたことで、多くの求職者が慎重になり、辞退数が減少。

2020年の振り返りから、 2021年に活かせるポイント③

- オンライン面接を導入する企業が急増。全体傾向として導入した企業は応募数が増えている。
- 今後も新型コロナウイルス感染拡大の心配は続くため、オンライン面接の導入は検討するのが吉。
- オンライン面接の導入で、遠方からの応募者増・面接交通費や宿泊費の削減、選考スピードの向上などの効果にも期待できる
- オンライン面接での見極めに難しさを感じている企業も多いため、導入にあたって、事前にオンラインでの見極めのコツを予習しておくで安心。

今こそ「入社後活躍」する人材の採用を



- 採用難易度（有効求人倍率）が低いうちに採用すること
- 経験者か未経験者優秀層、どちらを狙うか検討すること
- 在宅勤務・オンライン面接が導入余地があれば検討すること

…など。ここまで解説させていただいたように2021年採用のポイントはいくつもありますが、最も重要なのは「入社後活躍の可能性が高い人材を採用すること」だと考えています。

少子高齢化が進む日本で、採用難易度が下がる…というのは滅多にないことです。無闇に応募を募るだけでは惜しいです。

先の見通せない状況だからこそ、企業が成長するためにも、「入社後」まで見据えた採用を行なうことをオススメします。

入社後活躍する人材を 採用する**2つのポイント**



① 応募が集まりやすい採用手法を選択する

大前提、応募が集まらないことには入社後活躍する可能性が高い人材を「厳選」することはできません。様々な採用手法の特徴を比較しながら、「この採用手法なら確かに応募が集まりそうだ」と納得できたものを選びましょう。

② フィットtingを意識した情報提供

採用できても、早期離職してしまっただけでは意味がありません。長く活躍する人を採用するためにも、求人・面接では、仕事の良い面だけでなく、厳しい面も伝えて、「それでも入社したい」と思ってくれる覚悟ある人材を採用することを目指しましょう。

「入社後活躍」する人材を 採用するなら**エン転職**にご相談を

The screenshot shows the Enjob website interface. At the top, there's a navigation bar with the Enjob logo and various menu items like '転職・求人情報をさがす', '新着求人', '求人特集', '女性のお仕事さがし', '転職Q&A', and '転職ノウハウ'. A central banner displays '2020年8月20日更新！求人数 5712 件 (エンだけ掲載求人約80%)'. Below this, there's a '職種でさがす' section with a list of job categories such as '営業系', '企画・事務・マーケティング・管理系', '販売・サービス系', etc. The main content area features a '「働きがい」で見つける' section with several job cards, each with a photo and a brief description. A 'まずは会員登録' button is prominent. On the right, there's a '人事のナミダ' section with a blue banner and a '転職ノウハウ' section at the bottom.

多くの転職サイトは「採用をゴール」とみなしています。ですが本当に大切なのは、採用した後。入社した人材が実際に活躍・定着して、企業の業績に貢献して初めて、私たちのような転職サイトに価値が生まれると考えています。

だからこそ、エン転職はサービス開始以来、一貫して「入社後活躍」まで見据えた採用を行なうことを大切にしてきました。

そしてその実現のために、応募を集め、フィッティングの可能性を高めるサービスをご用意してきました。その一部をご紹介します。

エン転職なら応募が集まる理由① 求職者からの高い評判

オリコン顧客満足度4年連続1位 エン転職



オリコンヒットチャートでお馴染み、「オリコン顧客満足度調査」の「転職サイト部門」においてエン転職は、4年連続No.1（2021年時点）。

会員数も900万人超と日本最大級。求職者に今1番選ばれている転職サイトだからこそ採用にもオススメです。

さらに、エン転職には他の転職サイトにはない、採用の成功確率を高める様々な特徴があります。

エン転職なら応募が集まる理由② 1求人あたりの会員数が多い

エン転職は、会員数と掲載件数のバランスが良い

サイト	登録会員数	掲載件数 (エン・ジャパン調べ)	1求人あたりの会員数
A社 (2020年12月時点)	1043万人	48127 件	217 人/件
B社 (2020年7月末時点)	635万人	14050 件	452 人/件
C社 (2020年12月末時点)	591万人	82392 件	72 人/件
エン転職 (2021年5月末時点)	914万人	6386 件	1431 人/件

図はエン転職を含む、主要転職サイトの「登録会員数」と「求人の掲載件数」を比較したものです。求人の「掲載件数」とはすなわち、求職者を取り合う「ライバルの数」を意味します。

エン転職は他の転職サイトと比較してライバルが少ないので、1求人あたりの会員数が圧倒的に多いことが分かります。だからこそ、求人が埋もれにくく、応募が集まりやすいのです。

エン転職なら応募が集まる理由③ 新着案件は必ず上位表示

エン転職は、予算に関わらず求人の高露出を確約

エン転職は新しい情報ほど上位に

エン転職
SS企画 (新着)
S企画 (新着)
A企画 (新着)
B企画 (新着)
C企画 (新着)
SS企画 (非新着)
S企画 (非新着)
A企画 (非新着)
B企画 (非新着)
C企画 (非新着)

一般的な求人サイト
Aプラン (新着)
Aプラン (非新着)
Bプラン (新着)
Bプラン (非新着)
Cプラン (新着)
Cプラン (非新着)
D企画 (新着)
D企画 (非新着)
E企画 (新着)
E企画 (非新着)

一般的な求人サイトは予算が高いほど上位に

一般的な転職サイトでは、「プランの金額によって検索順位に優劣をつけて表示する」のがあたりまえ。採用に多くのお金をかけられる企業は、常に上位表示されます。一方で採用予算をそれほどかけられない場合は、検索上位に表示される機会がありません。

エン転職では、プランの優劣に関わらず、新着求人は必ず上位に表示。お求めやすいプランでも、高露出が確約されます。

エン転職なら応募が集まる理由④ 同時掲載で求人への露出量UP

エン転職にお申込みいただくと、 エン転職WOMANにも求人を同時掲載

The screenshot shows the En転職WOMAN website. At the top, there is a navigation bar with the logo and menu items like '転職・求人情報をさがす', '新着求人', '求人特集', '女性のお仕事さがし', '転職Q&A', and '転職ノウハウ'. Below the navigation bar, there is a main content area with a search bar and a list of job openings. The search bar includes a '検索' button and a '検索する' button. The job listings section features a 'NEW! 新着の求人' section with a list of companies and a 'おすすめの人' section with various job benefits and conditions. A sidebar on the right contains a 'ラクラク検索' section with a search bar and a '検索する' button, and a '日本最大級の会員数を誇る転職サイト' section with a 'まずは会員登録!' button.

『エン転職WOMAN』とは、女性採用に特化したエン転職の姉妹サイトです。エン転職に求人掲載いただくと、追加費用ナシで『エン転職WOMAN』にも求人を同時掲載。求人への露出量がアップします。

エン転職WOMANの魅力は、圧倒的な女性データベース。総会員数は450万人を突破（2020年3月時点）。女性会員数は日本最大級です。

エン転職なら応募が集まる理由⑤ 3つのサイトに求人を同時掲載

エン転職にお申込みいただくと、 **LINEキャリア**にも求人を同時掲載



『LINEキャリア』とは、国内の2人に1人が使うと言われる『LINE』に求人を掲載できるエンだけのサービスです。LINEユーザーは日本全国どこにでも存在するため、都市部の採用はもちろん、地方採用にも強いという特長があります。

しかも、エン転職の掲載費用だけで、エン転職・エン転職WOMAN・LINEキャリア、3つのサイトに求人を掲載できるので、より露出量がアップします。

2021年採用のポイント

エン転職なら応募が集まる理由⑥ 魅力を十分に伝えられるPRスペース

エン転職は、予算に関わらず情報量が一律最大

エン転職

一般的な求人サイト



全プランで一律
情報量 **最大**

過去8回
全国求人情報協会主催
「求人広告賞」
受賞

プランA

¥

¥¥

¥¥¥

¥¥¥¥

プランB

¥

¥¥

¥¥¥

プランC

¥

¥¥

プランD

¥

「求人掲載順位」と同様、一般的な転職サイトは、プランの金額によって求人情報量が変動します。エン転職は、予算に関わらず一律最大ボリューム。十分なスペースでより詳細に企業の魅力をアピールできます。

エン転職なら応募が集まる理由⑦ 求人品質へのこだわり

エン転職は、3年連続「求人広告賞」を受賞！ 求人品質が高いから応募が集まりやすい



エン転職は「求人広告賞（※）」を2018年から2020年まで3年連続受賞中。過去17回の開催のうち、半数を超える通算9回をエン転職が受賞しています。

企業ごとの採用課題に向き合って、質の高い求人を「求人専門のディレクター」と「求人専門のコピーライター」のタッグで制作します。

※求人広告賞とは？

一言で言えば、「求人広告の甲子園」。有益な情報提供により、困難な採用課題を解決し、採用成果に貢献したメディアが表彰されます。2020年は大手求人メディア各社を含む87点のエントリーがありました。

エン転職なら応募が集まる理由⑧ 辞退防止機能で会える確率UP

エン転職は、 面接アシスト機能でマナーある転職活動を推奨

サポート機能
面接アシストの利用



面接アシストは、応募者の無断キャンセルを防止するリマインド送信など、面接実施に向けたサポートをする機能です。まずは、面接日程を登録してください。
※ 面接後は、サービス向上のため実施の有無も登録をお願いします。

応募者情報	渡邊 美里 女性 / 27歳 / 東京都
面接日時	カレンダーを表示  (一) ... : ... ~
面接地	<input type="radio"/> 新しく面接地を登録 <input checked="" type="radio"/> 登録済みの面接地から選択 本社 / 東京都新宿区荒木町13-4 住友不動産四谷ビル5階

> 登録

エン転職は、すべてのプランに「面接アシスト機能」を完備。

忙しい人事・採用担当の方に代わって、面接前にエン転職事務局から「面接のリマインドメール」を送信。辞退防止に貢献します。

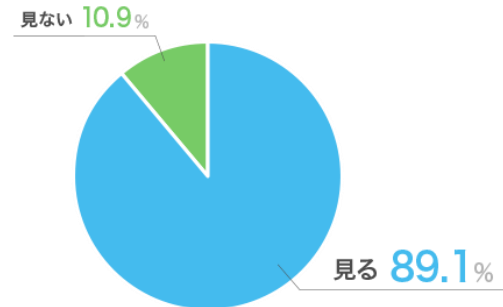
さらに、面接の無断キャンセルを行なった求職者には、改善要望の連絡を実施。無断キャンセルが続く場合は、「強制退会」を行なうなど、マナーある転職活動を推奨していきます。

エン転職なら応募が集まる理由⑨ クチコミで応募を後押し

エン転職にお申込みいただくと、 企業クチコミサイトとも自動連携

エン転職で転職活動中の求職者2800名以上を対象に「転職活動に企業のクチコミを見るか」アンケート調査したところ、実に89.1%の人が「見る」と回答しました。外食する時、家電を購入する時など、多くの人がクチコミサイトを利用します。クチコミがまったくないと利用・購入をためらう人も多いと思います。これと同じことが、「転職活動」でも起きています。求職者は応募前に社員・元社員のリアルな声をクチコミで調べようとします。クチコミがない企業は応募をためらうケースも少なくありません。エン転職をご利用いただくと、エン・ジャパンが運営する企業クチコミサイト「Lighthouse（ライトハウス）」にクチコミを掲載して、求人と連携させることができます。しかも、寄せられたクチコミに対して、企業から返信することも可能。ネガティブなクチコミがあったとしても、企業の見解や改善意思を伝えることで、求職者を安心させることができます。

Q 転職活動の中で、企業に関するクチコミを見ますか？



※ 調査対象：「エン転職」会員 調査方法：インターネット調査 調査人数：2815名

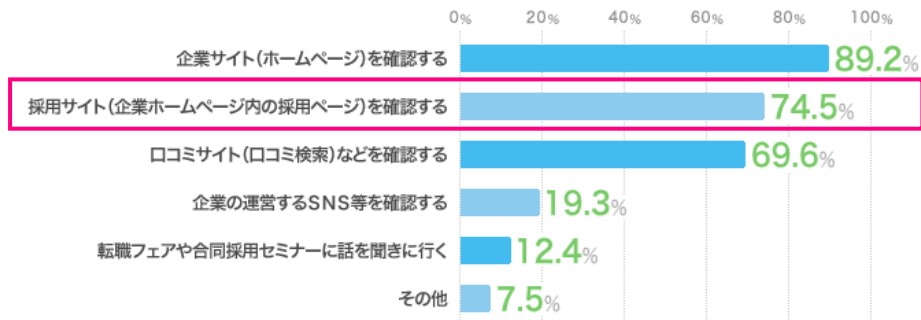


エン転職なら応募が集まる理由⑩ 採用サイトで魅力を訴求

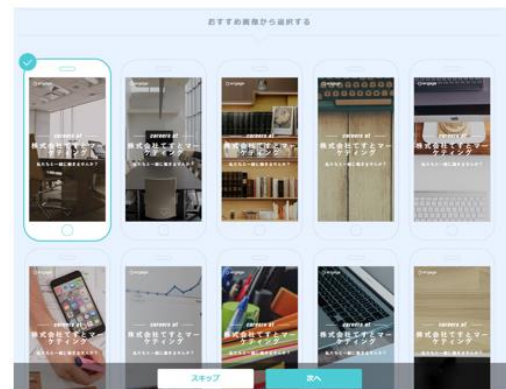
エン転職にご相談いただくと、 無料で採用サイトを作成可能

同様のアンケートで「転職活動中の情報源」について調査したところ、第2位は「採用サイト（74.5%）」でした。採用サイトとは企業HPとは別物。企業HPが顧客向けに特化しているのに対して、採用サイトは「求職者に特化」しています。転職は人生の岐路。応募先の企業についてより深く知ろうと、求人だけではなく、採用サイトを見る人が多いようです。一方で企業向けに行なった調査で、採用サイトを持っていない・持っていたとしても古い企業が多いことが判明しました。採用サイトがないことで、採用が不利になる。この現状を変えるために、エン・ジャパンは採用サイトを無料で作れるサービス「engage（エンゲージ）」を始めました。30万社以上が導入している、国内No.1利用者数の採用支援ツールです。エン転職であれば、求人を掲載するだけでなく、採用サイトを無料でつくることもできます。

Q 転職活動中、企業に関する「情報収集」は、どのように行ないますか？（複数回答可）



テンプレート選択



テーマカラー選択



エン転職なら活躍・定着する理由① 覚悟ある人からの応募を集める工夫

仕事の厳しさ・向いていない人の項目でミスマッチ防止

厳しさ

船上で使用する部屋は、二人部屋。そのため、寝るときも着替えるときも、常に同僚と一緒に過ごすことになります。一人になろうと部屋から出ても、別スタッフやお客様がいる状態。休憩中であつたとしても、常に周りの目が気になる環境です。休みの日でも、うっかり飲みすぎて酔っ払ってしまう…なんてことは、あつてはなりません。船に乗っている約100日間は完全なプライベートの時間はなく、気疲れしてしまうこともあるでしょう。

また、寄港地でのトラブルにも常に注意が必要です。ひったくりにあつてパスポートを無くしたり、移動中に交通事故に巻き込まれてしまう…なんてお客様もいるかもしれません。病気になった人がいれば、船内では他の乗客にうつらないように隔離したり、寄港地で病院を探したりするのも乗組員の役目です。救急車や警察に連絡をするのも、国によってルールが異なるため一苦勞。最大1400名もの乗客の命を預かる責任や怖さは、常に感じながら業務にあたることになるそうです。

この仕事の向き&不向き

向いている人

職場は、乗員乗客2000人近くが居あわせる客船。乗組員として、地球一周クルーズをサポートします。「長期間海外に行くような仕事に就きたい」という方にピッタリです。また、船の上では悪天候やメカニカルトラブルなどのアクシデントにも柔軟に対応することが大切。臨機応変に行動できる方に向いています。

向いていない人

一人の時間をこよなく愛する方、たくさんの人との共同生活が苦手な方には向かないでしょう。また、乗り物酔いが激しい方にも不向きな仕事です。

仕事の厳しい側面を求人で隠してしまうと、入社後にミスマッチに繋がる可能性があります。

そこで、エン転職では「仕事の厳しさ」「向いていない人」という項目を活用。

左は、エン転職に実際に掲載された「世界一周クルーズを企画・運営する会社の船の乗組員」を募集する求人です。

ただ応募を集めるのではなく、求人ですら事前に仕事の厳しい側面も伝えることで、入社後に活躍・定着する人材からの応募を集めることに貢献します。

エン転職なら活躍・定着する理由② 入社後フォローまで支援

離職リスク可視化ツールを無料提供

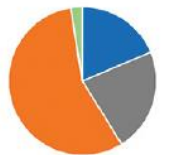
『HR OnBoard』は、入社者への毎月のアンケートで
離職リスクが可視化できる web ツール です。



- 1 素早く正確に予兆をキャッチ
- 2 フォローすべき人材が明確に
- 3 適切な対策をアドバイス

アラートが出ているメンバーを**可視化!**

12月のアンケート回答結果



素早くケアして**離職を防げる!**

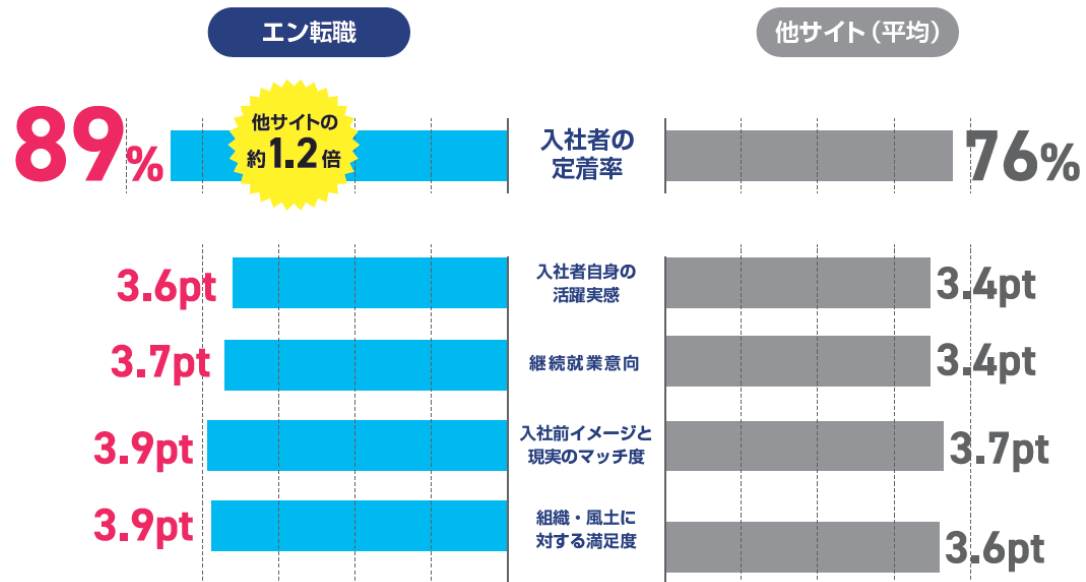
- ・せっかく良い人材を採用できたのに、すぐに退職してしまう。
- ・採用業務で忙しく、入社後のフォローまで時間を割けていない。
- ・結果、「人事のサポート不足」が早期退職の理由にされてしまう。

こうした悪循環に悩む方も、多いと思います。上記のような悩みを抱えているのは一部の企業だけでなく、エン転職にもこれまで多くの相談が寄せられてきました。

そこで独自に開発したのが、Webツール『HR OnBoard』です。入社者への毎月のアンケートにより、離職リスクを可視化。結果に基づき素早く適切なフォローを行なうことで、早期退職を防ぐことができます。この『HR OnBoard』は、エン転職をご利用いただいた企業様へは無料で導入できるようにしています。入社後活躍を実現するためには、採用だけではなくその後の適切なサポートも大切。だからこそ入社後支援にまで力を入れ、業界で唯一「入社後活躍を実現できるトータルサービス」を提供できるようにしています。

エン転職なら活躍・定着する理由③ 他社を上回る定着実績

1年後の定着率が他サイトの約1.2倍



エン・ジャパンが「入社1年後の定着率」に関する調査を行なったところ、「エン転職」経由の入社者は「他サイト」よりも定着率が高いことが判明しました。

さらに、「転職した会社で活躍できていると実感している」「今後も転職した会社で働きたいと思っている」「転職前に抱いていたイメージとのマッチ度」「組織・風土に対する満足度」

上記すべての項目において、エン転職は他サイトを上回る結果に。仕事の厳しさや向いていない人の項目でミスマッチ防止に取り組んでいる成果があらわれています。

出典：「HR OnBoard」から抽出した2つのデータを用いて、「エン転職経由の入社者」と「その他の採用手法経由の入社者」を比較分析した結果より。

<調査データⅠ> 調査対象：定着支援サービスHR OnBoard利用者 3872名（2017年12月～2019年6月に入社した方） 調査方法：定着支援サービスHR OnBoard利用者の1年後定着率を計算
<調査データⅡ> 調査対象：定着支援サービスHR OnBoard利用者で、入社から1年が経過した方 1239名（有効回答） 調査方法：webアンケート 調査期間：2020年4月1日～6月29日

最後に

入社後活躍する人材の採用なら、エン転職にご相談を

ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。現在世にある多くの採用サービスが「入社後活躍」の重要性を語るようになりました。ですが、口にするのは簡単でも、サービスにまで落とし込めるかは別問題です。

エン転職は、サービス開始以来、この「入社後活躍」を信念として掲げ、実現するためのサービスを追求してきました。入社後活躍する人材の採用支援において、最も企業のお力になれるサービスは、エン転職において他にいないという自負があります。この状況を打破するために、貴社の採用のお手伝いをさせていただけますと幸いです。採用を検討されることがありましたら、まずはお気軽に下記のお問い合わせ窓口にご連絡ください。

saiyo_support@en-japan.com

サイヨー クル

0120-3140-96

(9:00~18:00 ※平日受付)